

第3回「住宅部品点検の日」シンポジウム・平成26年10月1日 来場者アンケート結果

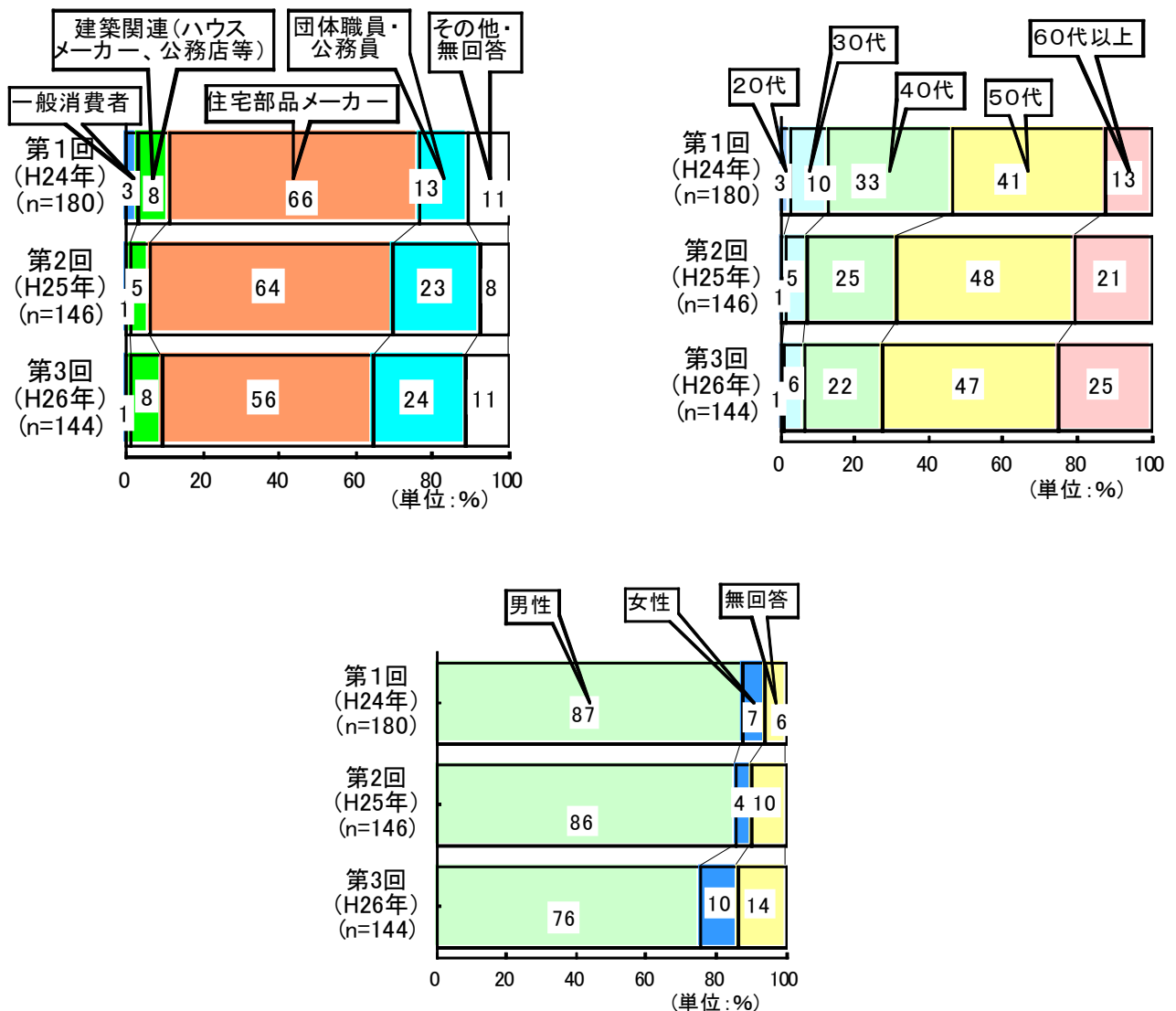
当協会では、第1回シンポジウム以来、出席者への配布資料にアンケート用紙を同封し、会場内での記入をお願いして、閉会時に受付にて回収しています。

第3回シンポジウムのアンケートの有効回収数は144で、出席者250人に対し約58%の回収率でした。これまでの有効回収数は、第1回：180（回収率約64%）、第2回：146（回収率約58%）です。

以下では、第1回、第2回と比較しながら第3回シンポジウムのアンケート結果をご紹介します。

1. 回答者の属性

アンケート回答者の立場・職業は、第1回から第3回とも“住宅部品メーカー”、“団体職員・公務員”が中心です。第3回は第1回よりも40才未満の年代層が減少し、50才以上が全体の約7割を占めています。また、参加者はほとんどが男性で、女性の占める比率は10%程度です。（図表-1）。

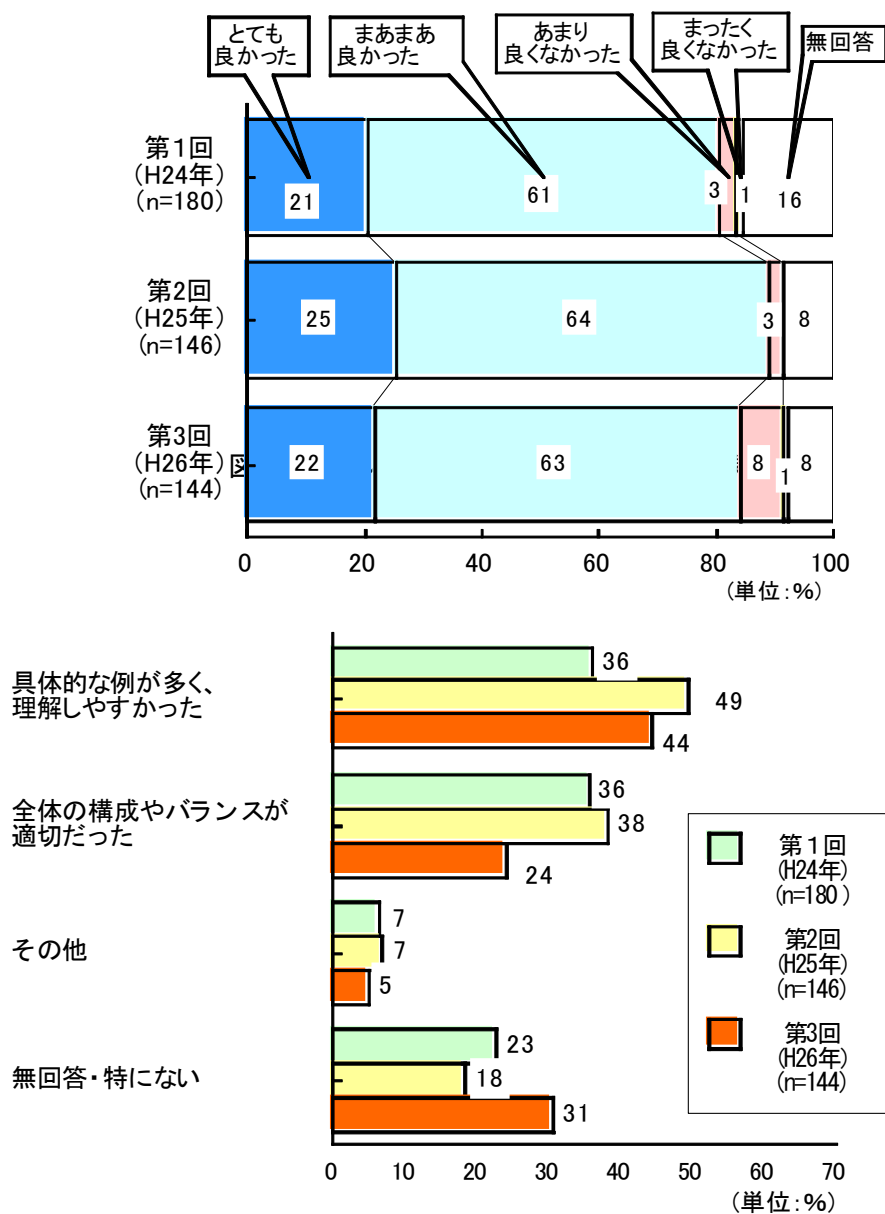


図表-1 回答者の属性 [立場・職業、性、年代]

2. シンポジウム全体の印象

シンポジウム全体の印象は、これまでの3回とも“良かった”（どれも良かった+まあまあ良かった）が8割以上となっており、全体の満足度は高くなっています（図表-2）。

具体的に良いと思った点としては、「具体的な例が多く理解しやすかった」がこれまでの3回とも一番多く、第3回では全体の44%の方が挙げています。次に多かったのが、「全体の構成やバランスが適切だった」という点で、第3回では全体の24%が回答しています（図表-3）。



図表-3 良いと思った点（複数回答）

〔 その他具体的に良いと思った点(第3回) 〕

- ・信太先生の報告は斬新であり、考え方の起点となる。
- ・他業種の状況と知識を得られたことが良い。
- ・日頃知り得ない研究成果を聞くことができた。
- ・過去のプログラムよりも理解しやすかった。
- ・参考になった。

3. 参考になった内容

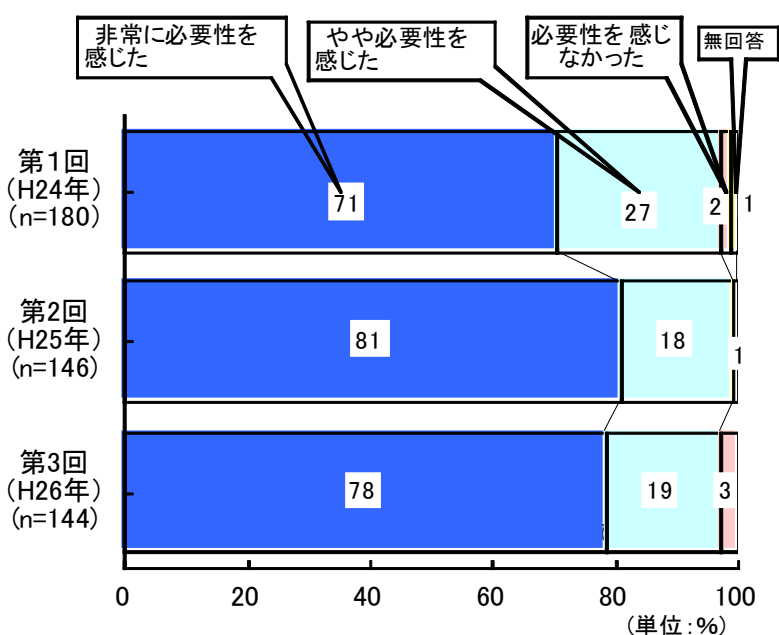
[参考になった内容 (第3回)]

※ () は、類似内容の回答件数

- ・耐用年数について考え方や説明(13)
- ・ファクターメソッドの話
- ・製品保証のあり方を科学的に分析され、興味深い
- ・予兆保全の考え方
- ・海外の保証システム、保全の考え方
- ・保守、修繕、改修の考え方が明確になった
- ・安全性の必要性を認知することで住宅価値をたかめることができる (2)
- ・残存率 (2)
- ・製造者と使用者を分けたものの考え方で、リスクをとらえると理解しやすいことがわかった (3)
- ・各業界の取り組みがよくわかった (8)
- ・信太先生の話はわかりやすく、提言もわかりやすかった (2)
- ・点検後の対策案が提案されて期待がもてる
- ・現実的な内容であった。業界共通としての課題が理解できた
- ・ハンドブックによる周知活動があることを知った
- ・昨年のおさらいもあり、具体的がわかりやすかった
- ・具体例による説明であった (2)
- ・大変勉強になった。話がわかりやすかった (4)

4. “点検の重要性” について

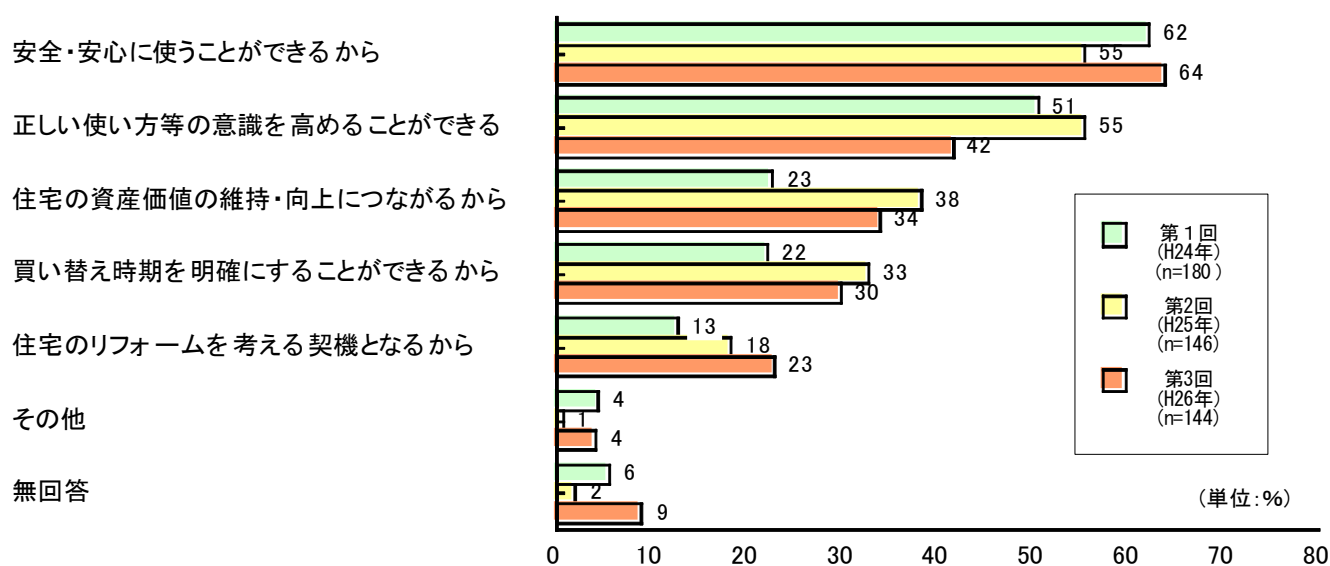
“点検の重要性” については、これまでの3回とも「非常に感じた」を全体の約8割が回答しており、連続して非常に好意的にとらえられています (図表-5)。



図表-5 点検の重要性について

(注) 第1回調査では、“住宅部品を点検する必要性”、第2回調査では、“保守点検の重要性” について聞いた内容となっています。

“点検の重要性”を感じた理由としては、第1回の結果に比べ、第2回、第3回では“住宅の資産価値の維持・向上につながるから”、“買い替え時期を明確にすることができるから”、“住宅のリフォームを考える契機となるから”などの比率がアップしており、安全・安心以外の面での効果に対する期待も高まっています（図表－6）。



図表－6 点検の必要性を感じた理由 (複数回答)

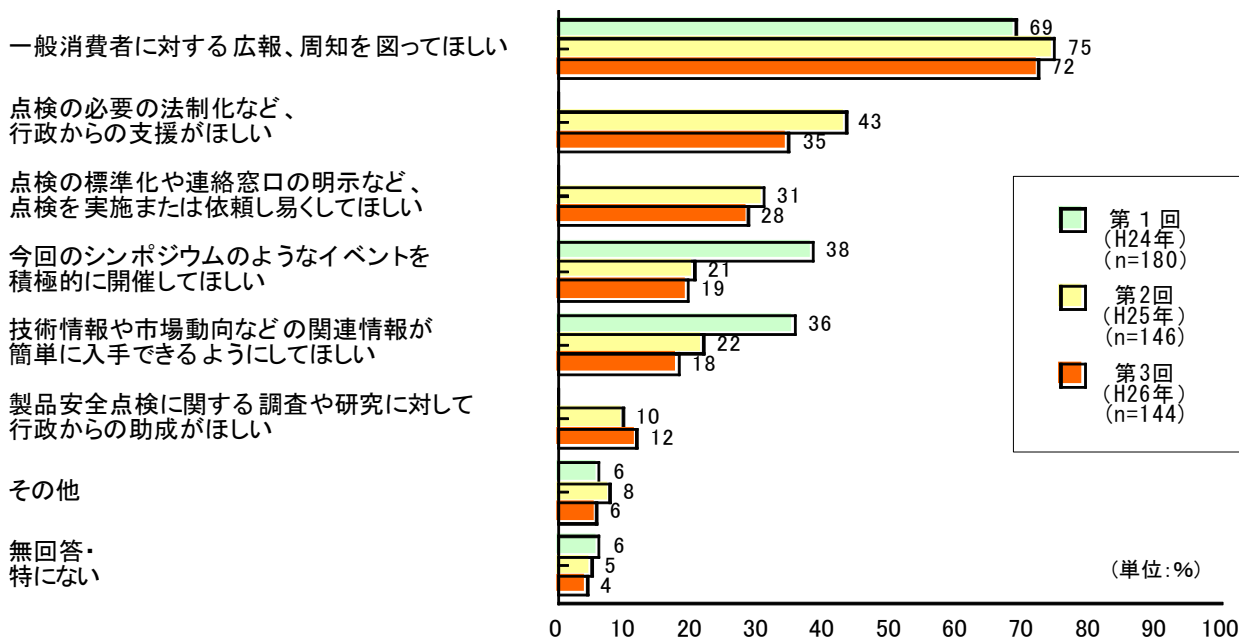
〔 その他点検の必要性を感じた具体的な理由 (第3回) 〕

- ・商品開発のコンセプトになると思われる
- ・点検修繕によってライフを延ばせる→住宅の長寿命化 (特に主要構造部)
- ・経年劣化の製品事故を防ぐため設計耐用年数をメーカー、ALIA、BL 等協力して打ち出していきたい
- ・ユーザーとメーカーが共に関わっていくことが重要だと思うから

5. “製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望事項

“製品の情報や修理・交換に関する情報” についての意見・要望としては、第 1 回から引き続き、“一般消費者への周知” が最も重視されています。

次いで「点検の必要の法制化など、行政からの支援がほしい」、「点検の標準化や連絡窓口の明示など、点検を実施または依頼しやすくしてほしい」などの要望が続いています（図表－7）。



図表－7 “製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望事項 (複数回答)

(注) 第 1 回及び第 2 回、第 3 回調査の回答選択肢は、同一ではありません。該当する箇所が空白となっているものは、同様の質問が行われなかったものです。

(以 上)